

原発がこわい女たちの会
http://blog.zaq.ne.jp/g-kowai-wakayama/

《 2015年02月 | [トップ](#) | 2015年04月 》

[検索](#)

2015年03月30日(月)

 [検索](#)

原発がこわい女たちの会ニュース93号発行

[アーカイブ](#)

3月30日、ニュース93号を発行しました。
内容は以下の通りです。根本洗一さんについては、本ブログ(3月16日)に掲載済みなので省略します。

【 CONTENTS 】

- ・原発5基が廃炉になる
- ・原発がこわい女たちの会28年のつどい(お知らせ)
- ・命ど宝
- ・福島のお百姓・根本洗一さんをお迎えしてお話を聞く機会がありました
- ・小出裕章さん京大原子炉実験所を退官
- ・福島県の甲状腺がん及び疑いは117人
- ・お知らせ・署名のお願いなど
- ・後記

原発5基が廃炉になる

○日本原電敦賀一号(運転年数45年) ○関西電力美浜一号(運転年数44年)美浜2号(運転年数42年) ○中国電力島根1号(運転年数40年) ○九州電力玄海1号(運転年数39年)

「廃炉は、経営的には当然だ。国が会計制度などのルールを変え、経営的にはノーリスクになった。国の保護策があつての判断だ。原子力に依存してきた会社は、採算が合う原発を生きながらえさせようとするだろう。電力自由化する以上、保護策は取り払うべきだ。」(2015.3.18朝日新聞・大島堅一立命館大学教授)

2014年4月の自民党政府のエネルギー政策はその後も具体的な論議はさけて来ました。「原発依存度については可能な限り低減させる」と言いながら「原発は重要なベースロード電源」としています。この中で具体化した廃炉。このあとも廃炉が続くことを願います。

学術の立場から国に政策提言など行う日本学術会議が、原発から出る「核のごみ」対策を政府と電力会社が明確化することを原発再稼働の条件にすべきだとする政策提言をまとめている。「将来世代に対する無責任」と批判しており、新増設も容認できないと強調しています。(共同通信2015/2/15)

福島原発事故は何も収束していない。避難者は約12万人のまま、仮設住宅に放置されている人たち。汚染水もコントロールされていません。このような中で、再稼働は許してはいけません。

原発がこわい女たちの会28年のつどい

佐藤栄佐久氏講演会「原発問題と地方の論理」

◎日時5月10日(日)14:00~
◎場所あいあいセンター6階・センターみらい/参加費500円
チラシとチケット同封します。

- 2016年11月(2)
- 2016年10月(1)
- 2016年09月(1)
- 2016年08月(2)
- 2016年07月(4)
- 2016年06月(2)
- 2016年05月(1)
- 2016年04月(3)
- 2016年03月(2)
- 2016年02月(3)
- 2016年01月(2)
- 2015年12月(4)
- 2015年11月(2)
- 2015年10月(1)
- 2015年09月(3)
- 2015年08月(3)
- 2015年07月(2)
- 2015年06月(2)
- 2015年05月(2)
- 2015年04月(2)
- 2015年03月(2)
- 2015年02月(2)
- 2015年01月(5)
- 2014年12月(3)
- 2014年11月(2)
- 2014年10月(2)
- 2014年09月(2)
- 2014年08月(1)
- 2014年07月(2)
- 2014年06月(1)
- 2014年05月(3)
- 2014年04月(4)
- 2014年03月(3)
- 2014年02月(1)
- 2014年01月(3)
- 2013年12月(4)
- 2013年11月(1)
- 2013年10月(3)
- 2013年09月(5)
- 2013年08月(1)
- 2013年07月(3)
- 2013年06月(5)
- 2013年05月(3)
- 2013年04月(2)
- 2013年03月(6)
- 2013年02月(2)
- 2013年01月(3)
- 2012年12月(2)
- 2012年11月(1)
- 2012年10月(2)

命ど宝

2015.3.11 本宮にて 橋柳子

もう？ 又の再びの3.11だ。「時のたつのは早いというけれど」その時とは何をさしているのだろうか。東日本大震災と東京電力福島原発事故で強制避難により故郷を追われた避難の民はその中味と思いは千差万別である。私個人に限って言えば長くもあり短くもある。そのようなことよりも、人々の心が福島を離れてはいないだろうか。わあーこわい、もうー？とおもうとき、心が波立つ。

2011・3・11の状況と避難経路は「忘れてしまいたい」と思う人々と「いや忘れてはいけないし、後世の人たちにつたえていかなければと考える人。そして「どっちでもいいじゃん」と心の中で思い、黙っている人、その他かな…？じゃ「お前は」といわれれば、忘れてはいけない、苦しくとも語るべき、伝えるべきと考える一人である。そんな中で思いを共有しようとする方と出会うことは励みである。

遠い和歌山から放射能測定器持参で福島を訪れ状況を伝えてくださる松浦さん。その彼女の悩みは、測定器がはげしく反応する福島と反応もなく数値の低い和歌山で、原発と被害そして課題をどう語ればいいのかと思いつくという。加えて人々の関心度もあるのだろう。事故当時と現在の人々の心の推移は不安を感じる。福島は自宅に一時帰宅する時、今でも測定器をもち、首からはガラスバジッ下げる。でもほとんどの避難者は「そんなことでもなんにもならない」と心の中で思っている。仮設住宅周辺も含め、周りのモニタリングポストの変化も横目でみて、そのことは話題にしない。何故って？ 機器自体を信じられなくなってきているからだ。来仮する人々が持参する機器の数値を見て、その違いを考えているからだ。本物はなにかと…？ 一方4年間仮設住宅で生活した人々が業を煮やして新たに自宅を建設。あるいは中古家屋を購入、転居を開始。狭い仮設では我慢も限度。もう待てないのだ。

復興のかけ声は声だけでじぶんたちのところには届かないと思いはじめている。各市町村の行政は努力はしているが、復興住宅はわずかしか建たない。何故って人員も資材もすべて不足である。何故不足しているかも解っている。

国に抗議したら、答弁席からヤジを飛ばしても、メディアも世論も沈黙を決め込むのも解ってるからに他ならない。でもでも「沈黙は金なり」等と云って黙ってる時だろうか。時々の経過は心を静めるところか、表現しがたい不安と疑念が澱のようにたまってくる。

このような時

「命ど宝」の沖縄のことが浮かぶ。日本の命は安いものだ。「事故の責任も反省」の弁はおろか謝罪のことがばすらないのだから…。

静かな朝 仮設の窓から電柱にとまっているすずめの一群(5~6羽)をたまたま見かけた。原発事故当時、避難の地でさえすずめもからすも目にすることはなかった。このすずめたちも放射能の影響を受けているだろうに。何んと気なげに生きていることか。すずめと人間命は同じよと思いながら…。たまに上京する折、車窓から連続する美しい自然をながめる。でも心からそのしぜんを満喫もできず、安心してながめることもできない。「事故がおきたら全部ダメに」一種のトラウマ、低線量被曝を受け続ける地で生き、展望の開けない中、願望と現実のギャップに心を病む。人間の営を根底からうばってしまう「原発事故」罪なき市井の人々を苦しめていることに目をそらしてはいけない。「座して黙してはいられない」と思う日々である。

追伸

2015年3月11日の本宮の朝は雪におおわれていました。3月の雪。

避難途上の16日。朝一面雪で覆われていました。その中を私が運転して親友宅にむかったことを思い出しています。つらかったよ… (3.11にFAXで届きました)

浪江駅4年前のままで一見何事もなかったようにたたく。

2014年11月18日撮影



小出裕章さん

今年3月末で京都大学原子炉実験所を退官

2012年09月 (2)
2012年08月 (2)
2012年07月 (4)
2012年06月 (4)
2012年05月 (3)
2012年04月 (1)
2012年03月 (1)

最新コメント

[日韓の原発事情、国 by 民 守 正義(08/21)

そもそも、我が和歌 by 清水俊幸(07/25)

コメントありがとう by sora (12/05)

突然すみません。東京 by 里美(11/22)

10/26と11/29のチケッ by 角谷(10/23)

starさんコメントあり by sora (09/14)

このブログを読むまで by star(09/13)

こんにちは。メッセ by わんこ(04/15)

現在稼働している大飯 by star(04/09)

廃炉産業を起こしてほ by kaziwarayosiyuki(03/14)

カレンダー

< 2015年03月 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

最新記事

琵琶湖が危ない 老朽原発 美浜3号も廃炉に！ 11・13

琵琶湖集会(11/15)

汐見文隆先生、ありがとうございました(11/08)

原発がこわい女たちの会

ニュース99号発行(10/12)

高速増殖炉もんじゅ廃炉へ (09/27)

老朽原発・美浜3号機は廃炉

に！パブコメを出そう(08/28)

ピースボートで韓国古里(コ

リ)原発を見学してきました

(08/21)

熊本地震の経験から原発の

耐震性見直しを要求し、25

団体で共同声明を出しまし

た(07/22)

老朽原発・関西広域連合へ

要望書と和歌山県との話し

合い(07/17)

原発のない社会を投票で示

そう！(07/05)

原発がこわい女たちの会
 ニュース98号発行(07/04)

SCHEDULER

ナビゲーション

- トップ
- 記事の投稿
- 管理
- RSS
- [ログアウト](#)

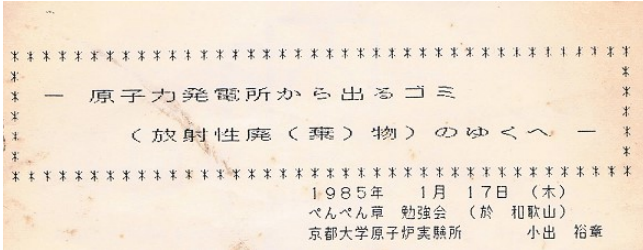


ご苦労さまでした。
 そしてありがとうございました。

2015年2月27日(金)熊取町の京大原子炉実験所に於いて(上記写真)14:00から第111回目の京大原子力安全問題ゼミが開かれました。小出さんが在職中の最後の講義を聞きに行ってきました。今まで安全ゼミに参加した人に連絡があり、(会場の収容人数に合わせて)申し込み先着順に100名と云う事でした。が

当日は140名になったようです。別室を設けていました。

BLOGariは2017年1月末サービス終了します



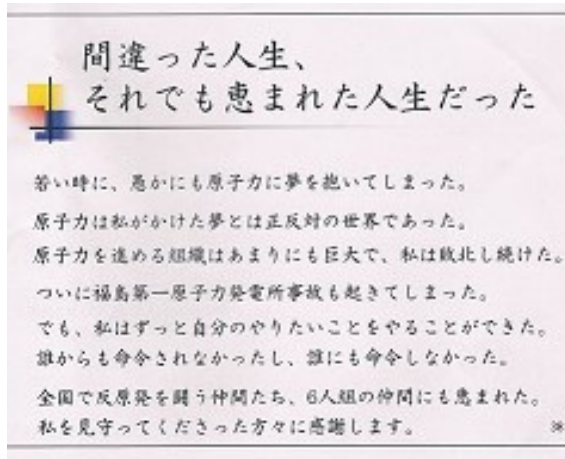
私たちは小出裕章さんとの関係というより熊取グループの人たちに教えて頂いたのは「ぺんぺん草」の時からです。黄ばんだレジメが残っていました。

丁度30年前1985年1月17日(木)で、勉強会はその当時はほとんど「紀の国会館」の会議室を使用していたと思います。小出さんの講演はNHKの夕方のニュースで報道されたことだけは覚えています。テーマは「原子力発電所から出るゴミ(放射性廃(棄)物)のゆくえ」と書いていますね。小出さんは原子力の廃(棄)物が専門でした。

この翌年チェルノブイリの事故が起きました。私たちは「原発がこわい女たちの会」を結成しました。原子力の専門家として、和歌山県各地の女の会でも、つぎつぎと講演をお願いしてきました。呑み込みのよくない私たちに嫌がらずに教えて頂いたことは感謝です。退官後は仙人になると言っていましたけど、福島原発事故が起こってしまっているからそういう訳にもいかないでしょうね。

2015年2月27日の第111回原子力安全ゼミの小出さんの演題は「原子力廃絶までの道程」でした。基本は30年前のレジメも同じです。(あらためて読んでみました)

当日は、今中哲二さん(一年後に退官予定)の司会で、最初に川野真治さんが「伊方原発訴訟の頃」として熊取の仲間のこと、伊方訴訟で指摘した殆どの事故が起きていることつまり伊方訴訟の先見性を話されました。小林圭二さん、海老澤徹さん、全員揃ってお元気な姿だったのはうれしかったですね。



小出裕章さん講演最後のことばです。

(松浦雅代)

* 福島県の甲状腺がん及び疑い 福島県全体で117人

2年前異常なしの8人が甲状腺がん(2015年2月12日発表)
先行検査(2011年から2013年度まで)本格検査(2014年から2015年度に実施している2巡目の本格検査)事故当時18歳未満だった子ども38万人を対象に実施している甲状腺検査で計118人の子どもが甲状腺がんの「悪性・悪性疑い」と診断され、その内88人が手術を行い1人を除く87人が甲状腺がんと確定しました。
(詳しくは福島県「県民健康調査」検討委員会第6回甲状腺検査評価部会・27年3月24日)

◎原発事故被害者の救済を求める全国運動 第二期署名が始まっています。「原発事故被害者の住宅・健康・保養支援の立法化と完全賠償の実現を求める請願署名」第二次集約日5月末日までをお願いします。署名用紙同封します。

◎福井の原発の避難計画では住民の安全は守れない！リーフレットを同封します。避難計画を案ずる関西連絡会のメンバーが避難元や避難先の各市町村に申し入れをし、避難計画の実態をチェックしたものです。和歌山は滋賀の広域避難先になっています。

◎A4判で、厚さ一センチまで82円で配達出来たヤマト運輸のクロネコメール便がこの3月で廃止になります。今後は郵便局から定型郵便物の大きさと、ニュースをお送りします。

<記>

女の会ニュース92号を発行した1月18日前後から2月1日の後藤健二さんの殺害動画が公開されるまで、緊張する日が続いていました。後藤さんのお母さんの姿が痛々しかった。結果的に日本政府は後藤さんを殺してしまった。理解できなかったのはイスラエル訪問中だった安倍総理が、日の丸だけではなくイスラエル国旗をバックに「テロには屈しない」と宣言したというニュース。あぜんとしました。安倍総理は何故中東をそれも親米国だけ訪問していたのかも。しかし、今、日本で集団的自衛権の閣議決定後の動きや憲法改正への動きを見ていると、アメリカに忠誠を誓い、いっきに憲法を変えようとしている人たちがいることがわかった。何んとしても止めたい。と思う。しかし特効薬はない。
今のところ、私は是非5月10日の佐藤栄佐久氏講演会を聞きに来て下さい！と言うしかありません。何故「知事抹殺」されたのか是非ご本人からお聞きください。福島県の郡山にお住まいです。友人や知人にチケットをすすめてください。

(松浦雅代)

◎女の定例会(仮称)は4月11日(土)14:00～ボランティアサロン(旧丸正)にて
テーマは憲法です。 参加自由

2015-03-30 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#) |

2015年03月16日(月)

根本洗一さんを迎えて

3月11日、東日本大震災から丸4年が経過。

この日、福島のお百姓・根本洗一さんをお迎えしてお話を聞く機会がありました。根本さんは、福島県南相馬市小高区で長らく有機農業に取り組んでこられた篤農家です。

じつは、根本さんとは古田伊公子さん(原発がこわい女たちの会会員)が福島で知り合われたご縁で、今回は根本さんを個人的に関西・和歌山に招待され

たので、ならばわれらもお会いしたいと便乗した次第。

ところは和歌山県日高町の「波満の家」…言わずと知れた浜一己さん経営の民宿、クエ料理の美味しいところ。

好天のこの日は浜さんの案内で、日の岬から紀伊水道の眺めを満喫していただいたそう。その後わたしたちと合流してまずは、町内の施設に入所されている鈴木静枝さんのもとをお訪ねしました。



(鈴木さんを囲んで記念撮影。後列右から2人目が根本さん)

鈴木さんはおかわりなくお元気でした。

小学校の師弟関係だった鈴木さんと浜さん。「鈴木先生」は、それはキビしかったそうで、よく忘れ物をして遠くの家まで取りに帰らされたなど思い出を語る浜さんだが、長じてお二人は原発反対運動の同志になるのだから面白い。

原発を拒んで作らせなかった和歌山の現地の人たちと、原発を拒みながら近隣立地の東京電力福島原発の事故のため、理不尽な被害を被らざるを得なかった南相馬の根本さんたち。両者の交流は感慨ふかいものでした。(東北電力による浪江・小高原子力発電所の計画は、反対して建てさせなかった。2013年3月東北電力は正式に撤退)

98歳になられる鈴木さん、「七十や八十はまだまだ若い、これからや」には、77歳の根本さんはじめ「一同(笑)」でした。また、「それで、原発は止まるんかいの？」もちろん、全国の原発はこのまま再稼働しないでおれるか、このさき廃炉に追い込めるか、という意味です。大先輩からはっぱをかけられることしきりでした(ご本人はそんなおつもりでなかったかも知れないが)。

さて、根本さんだが、南相馬市小高区で、農業に励んでおられる。ここは東電福島第一原発から十数キロ、当初は避難指示区域(警戒区域)で立ち入りが禁止。1か月ほど避難生活を送ったのち、相馬市に仮住まい(借り上げ住宅)。敷地周辺にて野菜作りに励み、喜んでくれる人に配った。体を動かしていないと苦痛なのだ。2012年、小高区が避難解除準備区域に再編されると、相馬市の仮住まいから通いで農業再開。行政から多くの栽培規制や出荷規制を受けながら3年間「試験栽培」に打ち込んで来られたのです。

2015年度の作付け計画は、有機農業水田30アール、餌米販売用24アール、みんなの田んぼ10アールの水稻を中心に、ジャガイモなど野菜の栽培です。「みんなの田んぼ」は体験農業用の圃場で、播種から田植え、稲刈り、脱穀、粃摺りと、口に入るまでの一連の行程に参加し体験することを目論むもの。とはいえ根本さんの事故以前の耕作面積6.5ヘクタールからすると、これはごく一部にすぎないですが。

昨年栽培した有機米は全袋検査の結果すべて、10Bq/kg以下(県が測定下限値と定めた25Bq/kg以下(玄米))だったそうで、ほんとうによかったです。

元もと福島県は、有機農業推進室を立ち上げ県で有機認証を行うなど、有機農業の先進地のようです。根本さんはそんな福島県で有機農業ネットワークの初代会長をつとめられた方。有機農業者は、農地を大切に育てておられるので、それが放射能で汚される悲憤は人一倍と推察しますが、都会の消費者や流通組織、県内外の大学の研究者や学生など再建支援に関わっていく

ループ・個人のつながりも大きいようです。

「自分の農業と暮らただけではなく、みんなとともに小高へ帰りたい」という地域の復興を大目標に、頑張っておられるが、状況はたいへんきびしい。除染も遅々として進まないまま(住宅2015年、農地2016年の予定)、周りの人々が小高への帰還を諦めた、別のところに家を建てたという話が多くなり根本さんの耕作地以外は雑草に覆われたまま。小高区の農業・生活の再開は見通しが見えないとのこと。

放射能汚染でさっぱり売れなくなった収穫物。風評被害に対抗し安全性を確かめるには、とにかく放射線量を測定することだと生産物の測定に片っ端から取り組んだ。結果は「検出せず」の連続。
根本さん曰く「それでもダメだよねえ」

今まで消費者には有機農業の安全性に安心を求めて購入してもらっていただけで、生産者と消費者の関係性は希薄であった、と思い至られたようだ。「南相馬市小高区の農業・生活再建支援の会」が「おだかつうしん」に記されているように、「根本さん応援団としても(中略)まわりの状況はどうであれ、根本さんと共に歩き、小高の現地で農業や農家らしい暮らしを体験し、学び、継承していく活動を、前向きに、自由に、明るく取り組むこと」に新たな方向性を求めておられるのも肯けるところです。

途方もない環境汚染をもたらした東京電力福島原発事故。原発に反対し再稼働を許さない運動とともに、私たちは消費者として被災された生産者どう向き合うのか、重要な課題を突き付けられた根本さんとの出会いでした。

注)本ブログは、根本さんのお話のほか、「おだかつうしん」第13号(作成・南相馬市小高地区の農業・生活再建支援の会 発行・根本洗一)、『放射能に克つ農の営み』(菅野正寿・長谷川浩編著 コモンズ)を参考にしました。

(sora)

2015-03-16 | [記事へ](#) | [コメント\(0\)](#)

RSS 2.0